

産地生産基盤パワーアップ事業
都道府県事業評価報告書

事業実施年度 平成28～平成29年度

都道府県名 岩手県

産地生産基盤パワーアップ事業

都道府県事業評価報告書

都道府県名 岩手県

1 産地パワーアップ計画

(1) 生産コスト又は集出荷・加工コストの10%以上の削減

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状 (〇年度)			目標 (〇年度)			実績 (〇年度)			スマート農業推進枠		事後評価の検証方法 (※定量的な検証ができること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
						現況 (〇年度)	面積 (ha)	生産量、出荷量、又は処理量	目標 (〇年度)	面積 (ha)	生産量、出荷量、又は処理量	実績 (〇年度)	面積 (ha)	生産量、出荷量、又は処理量	年度	導入・定着の取組の実施内容					
滝沢市農業再生協議会	1	滝沢市南部地区	水稻	乾燥調製施設 (RC) の荷受量向上、高性能乾燥調製施設の導入、飼料用米増産によるコスト削減に向けた利用集積	集出荷コストを10%以上削減 (20.9%削減)	(27年度) 41,067円/t	76	424t	(R1年度) 32,477円/t	103	570t	(R1年度) 32,462円/t	91	510t			100.2%	飼料用米の取扱量が計画どおり伸びなかったが、輸出米及び加工米の取扱量が増加したことにより目標を達成した。今後も継続して産地交付金等を活用しながら、飼料用米の作付拡大を推進していく。	飼料用米の取扱量が計画どおり増加しなかったものの、米全体の取扱量が増加したことにより目標達成することができた。今後も継続してコスト削減とともに、飼料用米の作付拡大を支援していく。	H27	
雫石町地域農業再生協議会	1	雫石町全域	露地野菜 (ねぎ)	①ねぎの選別、調整、出荷段階での省力化のため集出荷施設を整備 ② 肥培管理への注力による品質向上と栽培面積拡大	出荷コストの10%以上の削減【20.4%削減】	(27年度) 499円/5kgケース	25.6	452,608kg	(R1年度) 397円/5kgケース	28.4	539,600kg	(R1年度) 936円/5kgケース	25.8	370,575kg			-428.4%	産地全体の出荷量の伸び悩み及び選果場の人件費の上昇が目標未達の要因と考えられる。 前者については、近年の夏季高温・乾燥や相次ぐ台風の影響等の影響により、病虫害の発生や倒伏等の被害が多発しており、現状よりも出荷量が大きく減少している。また、生産者によって単収には大きなばらつきがあり、産地全体の出荷量に大きく影響している状況である。このため、関係機関による圃場巡回及び栽培技術指導を強化するとともに、熟練農家から新規栽培者への技術指導の機会の設定等により栽培技術の底上げを行い、出荷量の拡大を図る。 後者については、地元でのパート雇用の継続し、作業者を派遣で確保していたために作業の非効率化と賃金上昇を招いてしまった。これに対応するため、パート作業員の地元雇用の確保に努め、働きやすい環境づくりに取り組むとともに、動線の見直し等をカイゼンのテーマに取り上げ、作業効率向上による人件費の圧縮を図る。 上記に加え、生産者の選果場利用のメリットを高めるためには、出荷量の増加及び良品率の向上が必要であることから、規模拡大や品質向上に資する機械等の導入を支援していく。 以上の取組みにより単位当たりコスト低減を目指す。	目標達成に向け、栽培技術指導や作業効率向上に向けた取組を支援してきたものの、気象災害の影響や地元雇用の確保に難航し目標達成に至らなかった。今後も引き続き、栽培技術の向上と人件費の削減に向け関係機関一丸となつて、早期目標達成に向け支援していく。	H27	
紫波町農業再生協議会	3	紫波町全域	水稻	① 直播機械リースによる疎植、直播栽培導入による生産コスト削減 ② トラクター機械リース等による作業形態の見直しによる生産コスト削減 ③ コンバイン機械リース等による作業効率の向上により労働時間の短縮 ④ 高性能機械リースによる中心的経営体への農地の集約化	生産コストの10%以上の削減 (15.3%削減)	(27年度) 66,414円/10a	69.4	240,691kg	(R1年度) 56,235円/10a	99.14	-	(R1年度) 52,590円/10a	83.8	235,697kg			135.8%	産地全体では、面積拡大等により10aあたりのコストの削減目標を達成することができた。目標が未達成の取組主体については、面積拡大の強い意向があることから、中間管理機構等と連携しながら農地の集積・集約化を図り、目標達成に向け支援していく。	機械を整備することにより作業の効率化が図られ、面積が拡大し、10aあたりのコスト削減目標を達成することができた。しかし、取組主体によっては計画どおりに面積を拡大することができず目標未達となっていることから、引き続き中間管理機構等と連携し、農地の集積・集約化を支援していく。	H28	

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状 (〇年度)					目標 (〇年度)					実績 (〇年度)					スマート農業推進枠		地域(県又は国の)価格(販売単価)	補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法 (※定量的な検証ができること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
						現況 (〇年度)	面積 (ha)	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	目標 (〇年度)	面積 (ha)	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	実績 (〇年度)	面積 (ha)	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	年度	導入・定着の取組の実施内容								
盛岡市農業再生協議会	1	盛岡市 (玉山地域除く)	りんご	りんごの高品質・高付加価値を展開 ①高品質化及び共選率の向上に向けた共同利用施設の整備 ②鮮度保持処理剤の活用により出荷期間の延長 ③産地の取組みに関する情報発信	販売額の10%の増加 (総販売額) (19.3%増加)	(27年度) 439,000千円	86	1,780t	246.6円/kg	-	(R1年度) 523,847千円	99	2,094t	250.2円/kg	-	(R1年度) 604,805千円	89	2,045t	295.7円/kg	-			1.054	637,360千円	岩手中央農業協同組合の決算書、出荷伝票等により総販売額・総販売量を確認	233.8%	フリートレイ導入による果実損傷防止、スマートフレッシュ処理により品質向上が図られ、販売額増につなげたことにより目標達成できた。今後も更なる品質向上及び販路拡大に取り組むこととしており、更なる品質・販売額向上が見込まれる。	施設整備により品質向上が図られ、販売額の増加につながった。引き続き、地域協議会と連携し、産地の維持、拡大に向け支援していく。	H27	

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	スマート農業推進枠																地域(県又は国) の 価格(販売単価)	補正係数	価格補正 後の実績	事後評価の検証方法 (※定量的な検証が できること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
						現状 (〇年度)				目標 (〇年度)				実績 (〇年度)				年度	導入・定着の取 組の実施内容	事業実施 前年度	目標年度								
						面積 (ha)	生産量又 は出荷量	価格 (販売単 価)	生産コス ト	面積 (ha)	生産量又 は出荷量	価格 (販売単 価)	生産コス ト	面積 (ha)	生産量又 は出荷量	価格 (販売単 価)	生産コス ト												
盛岡市農 業再生協 議会	2	乙部	りんご	「高品質・高付 加価値」なりんご の販売を展開し、 販売額の31.1%の 増加を実現する。 ①品質管理の高度 化に向けた集出荷 貯蔵施設の整備 ②鮮度保持処理剤 の活用による出荷 期間の延長 ③贈答用などの自 家販売比率の向上	販売額の 10%以上の 増加(31.1%増 加)	(27年度) 412千円/ 10a	10.5	179,502 kg	241 円/kg	-	(R1年度) 540千円/ 10a	10.5	209,280 kg	271 円/kg	-	(R1年度) 503千円/10a	10.5	177,386 kg	297.7円 /kg	-	210.6円 /kg	199.8円 /kg	1.054	530 千円/10a	販売額について は、各農業者の決 算書、販売伝票等 により確認し、面 積については農地 台帳等により確認	92.2%	台風による落果のため収 量減少したことや、摘果 技術の不足による反収減 により達成率が下がった ものであり、今後、農業 改良普及センターの指導 会等を通じて技術向上を 図り反収増につなげるこ とや、販路拡大により販 売額の増加を図る取組に より、次年度の目標達成 が見込まれる。	貯蔵施設の整備により大 幅に販売額が増加した取 組主体がある一方、気象災害 や技術不足により目標を達 成できない経営体もあり、 目標販売額が未達となっ た。 技術指導の強化による単 収増や販路拡大に向け、地 域協議会と連携し支援し ていく。	H27
盛岡市玉 山地域農 業再生協 議会	2	盛岡市玉 山地域全 域	露地野菜 (枝豆)	① 収穫作業効率 を高めるために枝 豆兼用型収穫機及 び選別調整機等を 導入し、経営規模 を拡大する。 ② 品種や作型を 組み合わせ、地域 の集団的な生産計 画を構築し、継続 的な出荷体制を整 備する。	販売額の 10.0%以上 の増加(総 販売額) (170.2%)	(27年度) 12,435,814 円	10.2	20,400 kg	600 円/kg	-	(R1年度) 33,600,000 円	14.0	56,000 kg	600 円/kg	-	(R1年度) 14,478,358 円	14.58	21,089 kg	686 円/kg	-	519円/kg	524円/kg	0.990	14,322.3 83円	生産者のJ A及び 直売所の販売実績 等により確認	8.9%	産地の作付け面積は、目 標達成したものの、 4.5haがシカによる食害 を受け、生産量が減少 し、目標達成に至らな かった。令和2年度は、 シカ被害のある4.5haに 対し、鳥獣被害防止総合 対策交付金を活用しなが ら対策を実施するなど、 目標達成に向け引き続き 支援していく。	機械の整備により作付面 積を拡大することができ たものの、シカ被害により生 産量が減少し、目標達成に 至らなかった。 令和2年度は、対策を講 じることとしており、引き 続き地域協議会と連携し、 早期目標達成に向け支援 していく。	H27
八幡平市 農業再生 協議会	2	八幡平市 大更地区	トマト	① バイブハウスの 新規導入による 生産量増加への取 組 ② 加工用トマト 収穫機の導入に よる作業の効率化 を推進すること により、より一層 の収益力及び競争 力の高い産地形成 を図る。	販売額の10% 以上の増加 (総販売 額) 【21.3%増】 (施設野菜 20.7%) (露地野菜 40.0%)	(27年度) 【総販売 額】 施設57,324 千円 露地1,891千 円 計59,215千 円	2.65	242,353 kg	244.33 円/kg	-	(R1年度) 【総販売 額】 施設69,195 千円 露地2,648千 円 計71,843千 円	5.19	304,350 kg	236.05 円/kg	-	(R1年度) 【総販売 額】 施設76,635 千円 露地5,696千 円 計82,331千 円	5.28	施設 306,607 kg 露地 121,186 kg	施設 249.95円 露地 47.00円	-	施設 374 円/kg	施設 307 円/kg	1.218	施設 93,343 千円 露地 5,696 千円 計 99,039 千円	露地は契約栽培のため価 格補正なし	315.4%	導入した機械・施設を活 用し、成果目標である販 売額の10%以上の増加 を達成することが出来 た。	事業導入を契機に年々事 業拡大を行っている経営体 もあり、産地の強化につな がっている。 引き続き地域協議会と連 携し、取組主体の目標達成 と産地の強化を支援してい く。	H27
雫石町地 域農業再 生協議会	2	雫石町全 域	露地花き (りんご)	① 既存の集出荷 施設に新たに低 温貯蔵施設を整 備し、低温管理 による出荷調整 を可能にする。 ② 経営規模拡大 や新規栽培者の 増加により、栽 培面積の拡大を 図る	販売金額 10%以上の 増加(総販 売額) 【10.1% 増】	(27年度) 46,105,455 円	7.0	1,095,010 kg	42.1 円/kg	-	(R1年度) 50,768,827 円	7.80	1,124,448 kg	45.15 円/kg	-	(R1年度) 59,967,593 円	7.3	1,319,76 0本	45 円/本	-	40円	41円	0.976	57,963.8 59円	系統出荷の総販売 額実績により検証 【現状(H27)】 46,105,455円 【目標(H31)】 50,768,827円 需要期への出荷 を増やすことによ り総販売額を増加 させる	254.3%	集出荷施設を利用した出 荷時期の調整ならびに規 模拡大及び新規生産者の 確保による栽培面積の 拡大を通して、販売金額 の向上目標を達成した。 時期調整による高単価出 荷の体制が整ったため、 引き続き新規生産者の 拡大に取り組み、産地 強化に努める。	集出荷施設の整備によ り、出荷時期の調整、規 模拡大や新規生産者の 確保につながり販売額 が向上した。 引き続き地域協議会 と連携し、産地の強化 を支援していく。	H28
岩手町農 業再生協 議会	1	岩手町	露地野菜 (キャベ ツ)	高性能機械(トラ クター、キャベツ 移植機等)のリー ス導入による高度 化・低コスト化、 規模拡大を図る取 組	販売額の 10%以上の 増加(総販 売額) 【14.1% 増】	(27年度) 1,687,362,6 00円	420.0	18,340,8 97kg	401,753 円/10a (92円)	-	(R1年度) 1,925,640,0 00円	534.90	20,930,8 69kg	360,000 円/10a (92円)	-	(R1年度) 1,941,259,8 48円	534.8	20,313,2 83kg	362,988 円/10a (95.5)	-	92円/kg	78円/kg	1.179	2,287.16 3,943円	出荷先への販売実 績等による検証	251.7%	生産機械を整備したこと により規模拡大や効率化 が図られ、目標を達成 することができた。今後 も継続した事業発展が 見込まれる。	生産機械の整備により作 業の効率化が図られ、 産地の規模拡大につな がり大きく目標を達成 した。 引き続き地域協議会 と連携し、産地の強化 を支援していく。	H28
岩手町農 業再生協 議会	2	岩手町及 び葛巻町	露地野菜 (大根)	①収穫機、移植機 の導入による作 付面積拡大への取 組 ②予冷機の導入 による品質向上 への取組 ③産地力の強化と 販売額の増加に 向けた栽培管理の 強化と品質向上、 生産コストの削減	販売額の 10%以上の 増加(総販 売額) 【17.5% 増】	(27年度) 122,510,000 円	50.0	1,155,75 4kg	245,020 円/10a (106円)	-	(R1年度) 143,215,020 円	58.5	1,351,08 5kg	244,812 円/10a (106円)	-	(R1年度) 158,741,940 円	66.5	1,887,23 8kg	238,709 円/10a (84円)	-	106円/kg	83円/kg	1.277	202,440, 246円	出荷先への販売実 績等による検証	386.0%	事業実施により大根生 産の効率化と規模拡大 が図られ、目標達成 でき、今後も安定した 事業の継続が見込ま れる。	生産機械の整備により作 業の効率化が図られ、 産地の規模拡大につな がり大きく目標を達成 した。 引き続き地域協議会 と連携し、産地の強化 を支援していく。	H28
岩手町農 業再生協 議会	3	岩手町内 全域	露地野菜 (ごぼう)	収穫期や選別機を 導入により、規模 拡大と高品質化を 図る。	販売額の 10%以上の 増加(総販 売額) 【10.0% 増】	(27年度) 72,201,600 円	28.8	243,103k g	250,700 円/10a (297円)	-	(R1年度) 79,420,880 円	30.80	267,410k g	257,860 円/10a (297円)	-	(R1年度) 84,585,547 円	29.8	374,272k g	283,844 円/10a (226円)	-	297円/kg	206円/kg	1.442	121,972, 251円	出荷先への販売実 績等による検証	689.4%	事業実施により生産規 模の拡大と高品質化が 図られ、目標達成でき 、今後も安定した事業 の継続が見込まれる。	生産機械の整備により作 業の効率化が図られ、 産地の規模拡大につな がり大きく目標を達成 した。 引き続き地域協議会 と連携し、産地の強化 を支援していく。	H28

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	スマート農業推進枠																地域(県又は国)の 価格(販売単価)	事後評価の検証方法 (※定量的な検証が できること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考		
						現状 (〇年度)				目標 (〇年度)				実績 (〇年度)				年度	導入・定着の取 組の実施内容	事業実施 前年度	目標年度							補正係数	価格補正 後の実績
						面積 (ha)	生産量又 は出荷量	価格 (販売単 価)	生産コス ト	面積 (ha)	生産量又 は出荷量	価格 (販売単 価)	生産コス ト	面積 (ha)	生産量又 は出荷量	価格 (販売単 価)	生産コス ト												
紫波町農 業再生協 議会	1	紫波郡紫 波町赤 沢・長岡 地区	ぶどう	・ぶどう棚整備に よるワイン用ぶど う作付け圃地拡大 や契約栽培による ぶどう販売額の増 加 ・温度管理式醸造 タンク導入による 商品単価の向上と ワイン売り上げの 増加	販売額の10% 以上の増加 (97.0%増加)	(28年度) 5,355,639 円	10.5	17,904kg	299円/kg	-	(R1年度) 10,551,096 円	14.2	32,856kg	321.1 円/kg	-	(R1年度) 6,237,676 円	18.3	18,409kg	338.8円 /kg	-	ワインの価格及び全量契約栽培の ため、価格補正なし	パンヤードとフ ルーツパークのブ ドウ販売額と現状 を比較する	17.0%	ワイン用ぶどうについて H29の大雨、H30の長雨の 影響で木の成熟が想定よ り遅れたため、十分な収 量が確保できなかった が、令和2年度からは収 量の増加が見込まれる。 今後も地域協議会等と連 携し、技術支援を行うな ど早期目標達成に向け支 援を行っていく。	H27				
花巻市農 業推進協 議会	4	花巻市東 和町小山 田地区	地域振興 作物(ハ トムギ)	地域振興作物(ハ トムギ)産地の形 成の推進 ① 永年性牧草 等から地域振興作 物(ハトムギ)へ の作付転換の取組 ② 中心的経営 体への集積及び高 性能機械等の導入 による効率的生産 かつ規模拡大の取 組	販売額の 10%以上増 加(180.6% 増加)	(27年度) 12,827 円/10a	15.0	6,414 kg	300 円/kg	-	(R1年度) 36,000 円/10a	15.0	18,000 kg	300 円/kg	-	(R1年度) 45,730 円/10a	15.0	22,865 kg	300 円/kg	-	相対取引となるため、価格補正無し	合同会社 アグリ フロンティア販売 伝票等により確認 する。	142.0%	農業機械の導入により、 適期の除草作業や防除作 業を行うことができ、収 量の増加につながったこ とから、目標を達成した。 引き続き、地域協議会と 連携し、産地の強化を支 援していく。	H28				
一関地方 農業再生 協議会	1	一関市、 平泉町	施設野菜 (トマ ト)	① 販売額1千万 円以上を目指す中 心経営体の生産基 盤整備(規模拡大) 及び単収向上技術 の導入 ② 新規生産者の 確保及び生産基盤 の整備 ③ 9月の安定出荷 に向けた、着果量 調整等の基本技術 の徹底及び選種技 術の実施拡大 ④ 市場に対する 着果状況、出荷見 通し等の情報提供 による計画的な出 荷及び販売競争力 の強化を推進	販売額の 10%以上増 加 (総販売 額) 【29.4%の 増加】	(27年度) 50,691千円	1.45	183.6t	276 円/kg	-	(R1年度) 65,607千円	2.08	237.7t	276 円/kg	-	(R1年度) 62,019千円	2.08	214.5t	289 円/kg	-	276円/kg	266円/kg	1.038	64,346千 円	中心的な経営体の H31年度の農協出荷 から算出	91.5%	本事業を導入したこと により面積拡大や生産性 が向上し、概ね販売額は 伸びているが、天候の影 響を受け、目標を達成 できない取組主体が6名 となった。今後も引き 続き、関係機関と連携 しながら重点指導を 実施するなど、目標 達成に向け支援して いく。	事業導入により産地の 面積拡大や生産性向上 につながり、販売額が 増加した一方、天候や 病害の影響を受け、目 標を達成できなかった 取組主体も一部あり、 目標達成に向け支援 していく。	H27
陸前高田 市農業再 生協議会	1	陸前高田 市全域	施設野菜 (いちご・トマ ト・きゅ うり)	(1) いちご：生産 技術高度化施設整 備 ・環境制御可能な 低コスト耐候性ハ ウスの新設により 、長期安定生産を 行う。 ・土耕栽培より高 設栽培に切り替え ることにより、単 収向上を向上させ 、売上金額の増加 につなげる。 (2) トマト：高設 ベンチの設置 ・大規模園芸施設 のトマト栽培にお いて、高設ベンチ を設置すること により、栽培ベッ ドの均平化を図り 、単収向上につな げる。 (3) きゅうり：施 設栽培の規模拡大 ・生産部会におい て、新規就農者 を中心とした露地 栽培から施設栽培 への転換を働きか け、安定品質及び 安定生産による販 売金額の増加を目 指す。	販売額の 10%以上の 増加 (51.5%の 増加)	(28年度) 2,246 千円/10a	2.55	102,010 kg	562 円/kg	-	(R1年度) 3,403 千円/10a	3.0	172,462 kg	592 円/kg	-	(R1年度) 2,146 千円/10a	2.61	93,160 kg	601 円/kg	-	278円/kg	287円/kg	0.968	2,077千 円/10a	個別農業者のJAへ の販売出荷実績に より販売額を検証	-14.6%	・いちごについては、育 苗時期が高湿となり、生 育不良の苗が多く発生 するなど、定植本数の確 保が出来なかったこと から、収量が確保でき なかった。また、定植 時期が遅れ、収穫時期 も後ろ倒しになったこ とから、単価が高い時 期に出荷ができなかつ たため、販売金額が伸 び悩んでいる。 今後はJA、普及セン ター等による作業体系 の検討や適切な防除の 実施を進めるととも に、関係機関と市等 による定期的な打合せ を実施し、改善を図 る。 ・トマトについては、 夏場の高温障害による 落花によって、全体的 に収穫開始が1ヶ月遅 れたものの、定期的な 巡回や打ち合わせによ って、適時な管理が実 施され、収量が持ち直 した。今後はJAや普及 センターによる継続し た巡回指導の実施や 作業効率の向上に向け た人材育成に取組み 収量の向上を図る。 ・きゅうりについては、 JA、普及センター、市 が生産者に対し、増反 の働きかけを実施した が、労力確保やほ場の 確保等の点から、面積 増にはつながらなかつ た。また、褐斑病等が 多発したことから、 JAや普及センターに よる適期防除の指導 と耐病性品種の導入を 進め、収量の向上を図 る。なお、JA等による 既存の生産者への増反 の働きかけを継続し、 面積の確保に努める。	栽培管理技術不足、病 害や天候の影響を受け 生産量が低下し、目標 達成に至らなかった。 今後は、関係機関と 連携しながら技術指 導を実施することによ り早期目標達成に向け 支援していく。	H27